
二人でいるコトで…

yuki

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二人でいるコトで…

【Zコード】

N1440B

【作者名】

yuki

【あらすじ】

元の体に戻ること出来ないまま、灰原哀と江戸川コナンは中学生になった。お互い意識する中、少しづつ二人の関係は変わっていく。素直になれない二人のほんわかラブストーリー。

[The new world] (前書き)

これは一人の中学生での物語です。
誰もが体験したことがある甘酸っぱさを、表現できたら良いなあと
思います。

一人の心情を表すときは「新一」「志保」としていますが、あまり
気にしないでくださいね。では…

[– h e b e g i n n i n g]

<志保 side>

最近幸せって思う事がある。

それは些細な事なんだけれども、それがなんだかとても愛おしく感じる。

でもそれに慣れて来たら、もつともつと上の幸せを願ってしまう。
あなたの気持が欲しこうて思う事は、わがままなのかな？

<新一 side>

あの本がどうだつたとか、あの事件の犯人は誰だらうとか..
アイツとは話しのレベルが合つし、自分の本音も話せる。

一緒にいると楽で楽しい。

アイツが他の男子と話していると、妙にヤキモチをやいている自分がいる。

いつまでこんな関係でいられるかな。

[The bear can do it] (後書き)

初めて投稿する作品なので、んつー?と迷いつけることがあるかもしれません
が、笑っちゃっていただければ…

【Be too conscious】（前書き）

「元の体に戻ること出来ないまま、灰原哀と江戸川コナンは中学生になつた。お互い意識する中、少しずつ二人の関係は変わっていく。素直になれない二人のほんわかラブストーリー。

【 Be too conscious】

コナン達は中学3年生。11月はもう受験シーズンだ。
もっぱらコナンと哀はどんなレベルを受験するにしよ、余裕の頭だから焦る事はない。

しかし歩美、元太、光彦の3人は勉強に明け暮れていた。

朝の通学路にて…

小学校の頃から5人で歩いてきた通学路。
いつからか後ろをコナンと哀、前を元気な3人組が歩くのが当たり前になっていた。
そしていつも通りの話をしながら歩く。

(コナン)「なあ灰原、今日ってなんかあつたつけ?」

(哀)「えっと確か…美術でペアを作つてお互いの顔を書くん

じやなかつたかしら」

(コナン)「かつたりいなあ…お前、誰と組むつもり」

(哀)「さあ。でもまあ女子なら吉田さんかな。あなたは」「(コナン)「ああでも美術の坂岡はちょっと変わってるし…前は男女でくつつけられたな」

(哀)「ふうん。そう…」

<新一 side>

俺は組むなら灰原なんだけど…アイツはどうなんだろ。
アイツと組みたがる奴つて多そうだしな。
チクショ。何こんな事で不安になつてているんだ、俺…

<志保 side>

私から「組まない?」って言つたらおかしいかしきり。彼が答えるか。

男女ペアなら吉田さんが彼となりたいだらうし…他の子もきっとやう。

つて私何中学生みたいな事考へていいのよ。

美術の時間にて…

案の定、3・4時間目は男女ペアで顔のデッサンという事になつた。

ペアは休み時間のうちに好きな人と組んでおけとの事…

(歩美) 「あつコナン君…いたいたもうペア決めなくちゃダメだよ」

(コナン) 「歩美ちゃん…」(組むつて言われるのかな)

(歩美) 「コナン君つて、どうせ喪ちゃん組むんでしょう? 図星かナア」

(コナン) 「うん? 何を言つて…いや、そりゃ他の女子よりは」(な何だよ)

(歩美) 「あつね。でも良この?他の男子は灰原さんと描いてもらいたいって言つてたよ」

(コナン) 「えつーと、もしかしてその歩美ちゃんは…俺のアイツに対する気持ち…」

(歩美) 「そりゃあ知つてるよ 何年の付き合つて?」(笑やつぱりそつかそつか)

(コナン) 「…アイツには言わないでくれよな」

(歩美) 「言わないよつーだつてコナン君が喪ちゃんに告白するの見たいしね」

(コナン) 「あのなあ、いつ向と言つて、意識し始めたのはつい最近で告白とは…な」

(歩美) 「なつじやないよ。まあそこまで行かなくてもペア組ま
なきゃね」

(コナン) 「おつおつ…」

〈新一 side 〉

まさか歩美がこんなに感づいてるなんてな。歩美の奴、俺の反応見
て楽しんでやがったな。

てつきり、まだ俺の事が好きだと思つてた。つて何だ俺?バカか?
でも案外誰かに知つてつてもらうのはいいかもな。歩美なら手伝
つてくれそうだし。
そういうえば意識し始めたのつい最近つて言つちやつたけど、そ�だ
つたけ?

俺はいつからアイツの事を…

そんな中…灰原は

(弘司) 「灰原さん!! お俺とペア組まない?」

(哀) 「…私はその」

(弘司) 「さつき藤原の事断つていたけど、俺でもダメ?」

(哀) 「私、組む人決まってるから…」 (しつこいな)

(弘司) 「誰それ?」

(哀) 「えつーと…それは」 (聞かれても、約束してないし…)
(コナン) 「俺だよ。灰原の相手。だから構わないでおいてくれる
?」

(哀) 「…あつ…そう、私江戸川君とペアだから」

(弘司) 「ふうん。才色兼備の灰原と、頭も良いサッカー少年の
組ね…まあいいや」

弘司はあきらめて帰つていった。しかし2人はクラスで軽い注目を
浴びていた。

<志保 side >

工藤君…私を助けてくれたのかしら。
それとも、まさか…ね。

(「コナン」) 「大丈夫か? 弘司だけ…結構しつこかつたな」
(「哀」) 「ええ。あつありがとう、助かつたわ」
(「コナン」) 「おう。当たり前じやん。小さくなつてから俺達、二人
で何でもやつてきただろ?」

そうこうとコナンは自分の席に顔を赤くして戻つていった。

<志保 side >

今のは友達として? それとも…
なんだか私、意識しすぎてる? ビックリ。心まで中学生になつて
きたのかも。
ドキドキしてる…

<新一 side >

何言つちゃつたんだ俺…恥ずかしい。
アイツはどんな意味でとつたんだ?
気づいていなければ良いけど、おもわず。それに俺、独占欲強すぎ
かな…

そしてとうとう始まつた美術の授業。
お互いの意識をしそぎて、相手の顔が見れなかつた。

【Be too conscious】（後書き）

私も中学生ですが、この人とペアになりたいとか、隣の席になりました
いとか思つ事があります。
やっぱり、そういうものですかね？

〔 a n g e l o f a n e a r l y a f t e r n o o n 〕 (前書き)

いつもお互^い一人で過ごす日休み。
それを変えたいと思つ^うトナ^ンは哀^{かな}い...

[angel of an early afternoon]

<志保 side>

昼休みは一人でいる事が多い。

たまに吉田さんといふときもあるけれど、活発な彼女についていくのは大変。

一人つて嫌いじゃないし、いろいろ落ち着いて考えられる。

このクラスは何だかみんな元気がいい。

教室にいつもいるのは、私と難易度の高い高校を受験する人達…といつても先生に勉強を聞きに行くか、図書室で勉強をやるかだから実際は私だけか。

工藤君は、いつも姿が見えない。

得意のサッカーをやっているのかと思つて外を見ても、その中に彼はない。

不安…たつたこれだけの事だけど、それだけで何かが足りないような気持ちになる。

私の心、だいぶ弱くなっちゃつたみたい。

自分を変えて社交的になつて、昼休みほかの場所で遊ぶ事は出来るかもしけれない。

でも私が何か変わつたら、彼が離れていてしまう気がするから…

<新一 side>

俺は昼休みはいつも体育館裏にいる。

「遊ぼうぜ」と声をかけてくる奴がないわけでもない。でも基本的に話せるのは元太と光彦くらいだ。

ただまだ、純粋に15歳になりきれていない自分がいる…

アイツは… 灰原はいつも教室で本を読んでいるみたいだ。

その姿はなんと言つてか近づきにくいけれど、なんかきれいで…
素直に声をかけられたらいいのに、ためらつていい。

そつけなくされたら、きっと大きなダメージになってしまつから。

小学校の頃から灰原は変わつていない。

そんな灰原を見ることで安心している自分がいる。
けれど、今日は少し近づいてみよう。

(コナン) 「よお灰原。また読書かよ?」

(哀) 「江戸川君…」

(コナン) 「誰もいないことだし、遠慮せず話せよ」

「コナンはもう言つて哀の隣の席に座つた。

(哀) 「… 2回田の中学生生活は、暇で仕方が無いのかしら? 藤君?」

(コナン) 「そういうんじゃねえよ。ただ… たまにお前といふのも良いかなあつて」

(哀) 「なつ、何言つてるのよ…」

(コナン) 「なあ、いつつも何の本読んでるんだ?」

(哀) 「ミステリー…かな」

(コナン) 「俺の厳選した推理小説でもどうよ」

(哀) 「あなたの推理オタク、移さないでよ」

(コナン) 「なつ、蘭みたいな事言つて…」

(哀) 「…」

(コナン) 「悪い、蘭の名前出して」

(哀) 「別に… 私に気なんか使わないでくれる?」

(コナン) 「なあ灰原、俺はアイツの事はもう… 思い出だから」

(哀) 「だから、何?」

(ノナン) 「ん~だからあれだ、昼休みでも使って、新しい思い出
でも作るつか…」

少し驚いた哀、そして…

(哀) 「それも…良いかもね」

(ノナン) 「…やっぱオメエにはかなわないな」

(哀) 「それって、どういう意味よ?」

(ノナン) 「さあな、シークレット、シークレット（笑）

一人は落ち着くもの、けれどそれよりも一人の方が幸せになれる。

<志保 and 新一>

2回目の15歳は、前よりも甘酸っぱく…

二人でいる昼休みが日常になつたら良いのこと、心底思つた。

「 angel of an early afternoon」(後書き)

昼休み図書室にいるとき、好きな人と一人っきりになつて、話して、楽しかった事を思い出して描きました。感想を聞かせてもらひえると、うれしいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1440b/>

二人でいるコトで…

2010年10月22日00時10分発行